
◆ ガイダンス ◆

- 本書は、講義26コマ、演習問題、課題論文4本（別冊に収載）により構成されています。課題論文として、糖尿病領域で行われた疫学研究・臨床試験・費用効果分析を選びました。最初に課題論文の抄録を読んで全体を把握してください。論文の参照箇所は講義中で随時お示ししていますから、講義を中心に読み進め、必要に応じて論文に戻る形で結構です。
- 講義の冒頭で「本講のテーマ」を掲げた後に、それについての解説がなされ、最後に「本講のエッセンス」としてまとめを行っています。本書をひととおり終えた後には、課題論文の通読にトライしてみてください。
- 解説の途中で、生徒とオオサンショウウオ先生の質疑応答があります。講義の補足となっていますので、合わせて読むようにしてください。
- 可能なかぎり数式は用いていません。いくつか大切なトピック（最小化法、ランダム化に基づく統計的推測、サンプルサイズの公式）については、講義の後に「理解を深めるための計算」を用意しています。お急ぎなら、こちらは飛ばして読んでいただいても構いません。
- 生物統計学は、統計学、臨床試験、医療経済評価、疫学といった学問分野にまたがっているため、全体を俯瞰しづらい面があります。図1に、本書に登場するキーワードを整理しました。本書で扱う統計手法は、誤差の表示、仮説検定、回帰モデルなどです。これらの基本的な手法を押さえておけば、疫学研究・臨床試験・費用効果分析のさまざまな状況に対応できます。
- 本書は姉妹書「医療統計セミナー 論文読解レベルアップ30」を読んでも理解できる構成となっています。なお、特に重要な内容については姉妹書と重複して残しています（本書内、上付きの★印を付した箇所）。
- 本書では英語論文を読む助けになるよう、キーワード初出には日本語と英語を併記しています。外国人名は英語表記としました。例えば、図1のPoisson（ポアソン）、Cox（コックス）は著名な統計学者・数学者です。

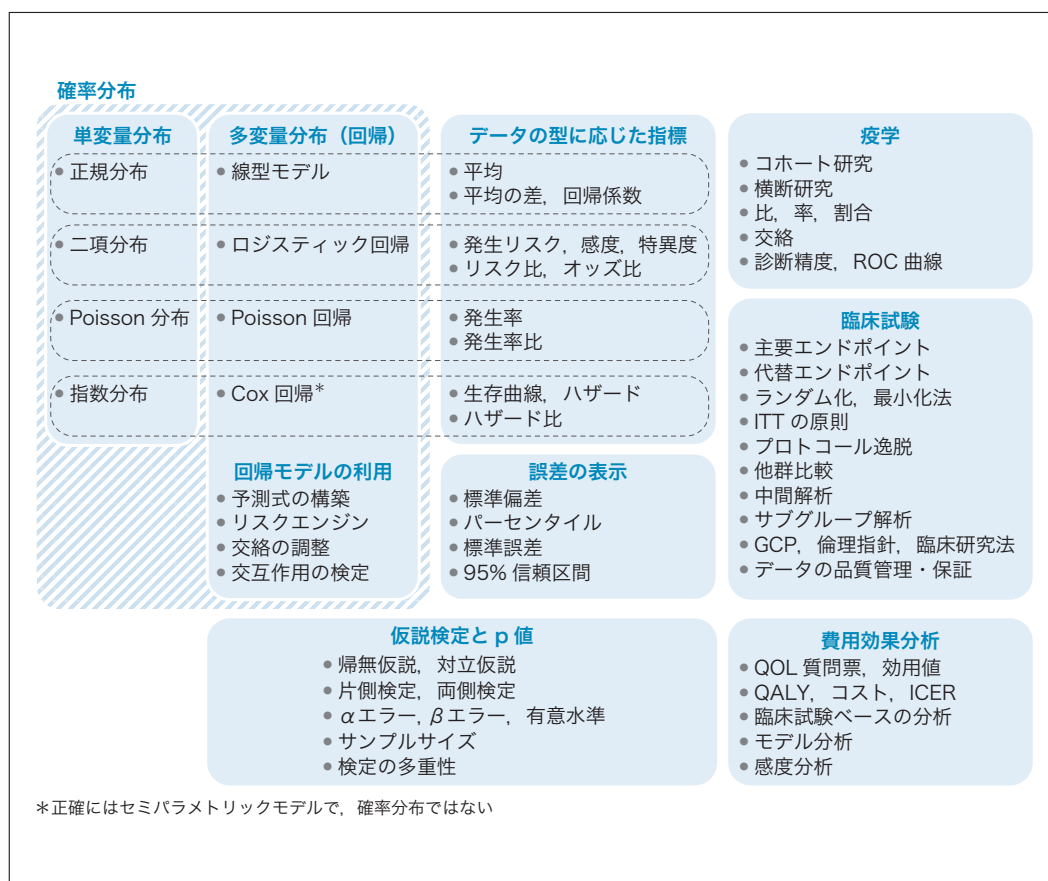


図 1 本書で解説する生物統計キーワード

課題論文ごとのキーワードを，別冊に収録した各論文の冒頭ページに示しています。